

スギ花粉症対策の推進について（新規）

SGEC 附属文書

5-4 2018

会長決裁

2018. 8. 15

—推奨事業—

スギ花粉症対策の推進について

花粉症は、国民の約3割が罹患しており、社会的に大きな問題となっている。特に、スギ林は、全森林の約2割を、また、人工林の約5割を占めており、日本林業を推進する上で重要な樹林であるが、これが花粉の主な発生源となっていることに注目が集まっている。

スギは、日本の自然的立地に適した樹種として国内に広く分布しており、優良な木質資材の供給源として重要な役割を果たしてきた。今後においても、スギは、日本の郷土樹種（自生樹種）として森林の資源や環境を守り、また、環境にやさしい木質住空間や日常生活に欠かせない木工生活用具などを供給する原材料として不可欠である。

現在、スギの人工林は成熟期を迎えつつあり、その生産される木材資源の適正かつ高度な利用を進めつつ、収穫跡地に造成される後継森林を健全に育成していくことが極めて重要となっている。

このような状況の中で、今後のスギ収穫跡地のスギ林の造成に当たっては、「花粉の着生量が少ない品種の苗木」について、スギ花粉の発生状況等スギ林の生理生態について検証しつつ導入し、100年にも及ぶ超長期の事業として、花粉症の発症誘因とならないスギ林に改善し、「森林と人間の共存」を目指す森林づくりを推進する。

記

今後のスギ林の収穫後の後継森林の造成に当たっては、適地適木の観点から検証し、スギの適地には花粉発生量の少ない品種の苗木を導入するとともに、主として尾根筋、沢筋など広葉樹を導入することが妥当な箇所には天然林施業を推進し、スギ林及び広葉樹林が、それぞれの生育条件に応じて適正に混交する多様な森林の造成を目指すこととする。具体的には次により、現状のスギ花粉の過剰な飛散を改善しつつ、生物多様性や流域保全に十分機能する活力ある健全な森林の造成に努める。

- 1 スギの適地には、従来の植栽苗木の選定要件であった「気象・病虫害等への強い耐性」や「良好な成長」に加えて、「少ない花粉着生量」の素質を有する品種の苗木を積極的に選定して導入する。大都市圏等の都市近郊林にあっては、特にこのことを配慮する。
- 2 広葉樹を導入することを妥当とする箇所にあつては、天然力を活用した施業を積極的に導入する。

注意書：「花粉着生量の少ない品種の苗木」の供給については、都道府
県森林・林業部局及び同森林・林業研究機関に照会。